

シルバー

ところざわ



No.78

◆発行 社団法人 所沢市シルバー人材センター広報部会 2002.4月25日発行

新春恒例の会員による作品展が1月23日～25日の3日間、市立中央公民館2階ホールで開催された。初日は高野理事長初め役員の方々も出席され、賑やかに会場には絵画・書・写真の他、陶芸や編物など198点が展

示され、各分野で目を奪われるような見事な作品が数多く見られた。

なかでも、注目を集めたのが当作品展に初めて登場したガラス絵で、ガラスの裏面に逆に描く特殊な技法で、鮮やかな色彩とメルヘンチックな構図に来場者もうつとり。昨



芸術作品が揃う

会員作品展

年の春、会員になった東郷靖司氏(写真)が3点出品した。

東郷氏は福井県生まれ、子供の頃父親の影響で書や絵画に興味を持ち、中学時代から日本画を習い始める。その後、仕事の都合で海外に出かける機会が多くなり、特に欧州出張の際は時間の都合をつけ美術館や骨董品店などを見て歩くうちに、ガラス絵の魅力に取りつかれる。
「10年程前からその技法や色彩を学び、最近になつてようやく納得のいく作品が出来る

ようになりました。デッサンが基本で、色彩感覚は経験と努力により誰でも身に着けることができます。絵の具は岩彩・アクリル・水彩を使います。が、お金はそれほどかけていません。ガラス絵を始めてから、友人も増え生活に潤いが出てきたように思います」と

自信作「愛しのドオール」(8号)を抱え嬉しそうに話をされた。

東郷氏は現在、日本ガラス絵作家協会に所属し、年数回、銀座や上野などでグループ展を開催しているとの由。

来年も多くの方々が出品されることを期待しています。

シニアワークプログラム講習会を開催

3月18～20日の3日間開講。この間やや風が強かつたが天候に恵まれた。今回は、垣根作りの要望が多くあり、特に植木職群会員を中心に、まだ上手く作れる人も少ないので、より多くの人ができるようにするため、技術向上を目的とした講習会で、参加者は24名。初日、午前中はセンター会議室で植木職群1班々長の西方喜一氏から「作業上の安全について」等の講話。午後からは場所をシルバー人材センターの前庭に移し、渡辺政満講師の指導で、3日間の実技講習が行われた。

説明によると、垣根は優に数百種類もあるらしい。垣根の基本は四ツ目垣であり、京

風、江戸風があるとの事。竹を材料にした垣根で一般に多く作られる代表的なものの中から、1日目は「四ツ目垣」、2日目「金閣寺垣」、最終日は「建仁寺垣」の3種類の垣根作りを実習した。

実技では、渡辺講師の手際よい指導で竹組みや縄の結び方等一つひとつ技を学習。それを見つめる受講者の眼差しは真剣そのもの。各自の習得も早く、楽しんで学ぶ様は、若い人にも負けない力強さを感じさせるものだった。

受講していった方のひとりは「今回学んだ技術を身につけて仕事を完成させて、お客様に喜んでもらえると、この仕事において良かったと思う

でしようね」と語っておられた。

最近では、竹垣をあまり見掛けることが少なくなっているが、日本古来から親しまれたり多くの人材を育てる必要性を感じさせられた。(岩崎記)



垣根作り講習会 に参加して

亀井 克敏

去る3月18日から3日間、シルバー人材センターの前庭において垣根作り講習会が行われた。目的は植木班の技術レベルのアップと就業機会の増加。植木班の渡辺講師の丁寧な指導のもとで24名が四ツ目垣、金閣寺垣、そして建仁寺垣の制作に懸命に取り組んだ。丸竹を節の上で平に切る。簡単に思えるが、実際にやつてみるとなかなかうまく行かぬ。竹を割る。両方の厚さがほぼ均一になるように割る。これもまた至難の技。柱を垂直に立てる、銅縁や押縁(横の竹)を付けて立子(縦の竹)を入れる。さあ、次はシユロ縄での結束。男結び、飾り結びと難度がアップ。ただ結んだというのでは落第だ。しつかりと動かぬよう、しかも、形良く、そして、早く結べなくては合格点はもらえない。

この3日間の講習で教えたことの中には難しいこと多々あった。今後、ここで身につけた技術に研ぎをかけ、現場での仕事に大いに活かして参りたい。



おじゃましまーす

職場訪問記

(20)

自転車は小回りがきいて意外に便利な乗り物ですが、駅周辺に放置され、しかもそれが夥しい数になると問題が生じます。美観を損するばかりか時には危険な存在になつたりします。

そこで、所沢市シルバー人材センターでは39名の会員が所沢市の委託を受けて、その整理及び駐輪指導の仕事に当たっています。13年4月から「駅周辺放置自転車指導員」という職種が追加され、従来の「整理」だけでなく「ここはダメ、正式の駐

輪場を利用しつてね」と利用者の肩を叩くことができるようになります。現在指導員が配置されているところは、所沢駅西口、同東口、新所沢西口、航空公園、東所沢、小手指、狭山ヶ丘駅周辺の7カ所となつています。

今回お訪ねしたのはなかでも「見違える程、周辺がきれいになつた」と好評を得ている東所沢駅周辺で、曇天ながら比較的暖かな2月下旬でした。ここには伊佐地登、宮城繁、三宅恒のお三方が働いておりました。あふれるような自転車を想像しながら出かけた身には拍子抜けする程さっぱり片づいた駅前口一タリ。隅の方に、15台程の自

暖かな日差しに恵まれた3月7日の午後、シルバー人材センター庁舎内で催された安全講習会に、120名余を集めて保険・交通安全・悪徳商法についての講話がありました。高野理事長は、「陽気がよく

安全講習会

転車が行儀よく並んでいました。たいてい30~40台は残っているのに、数日前に市の撤去があつたばかりで特別少ない日だつた由。それにしても昨4月頃は350~400台放置されているのがあたり前だつたのだから、これが配置された。現在指導員が配置さ

れているところは、所沢駅西口、同東口、新所沢西口、航空公園、東所沢、小手指、狭山ヶ丘駅周辺の7カ所となつています。

今回お訪ねしたのはなかでも「見違える程、周辺がきれいになつた」と好評を得ている東所沢駅周辺で、曇天ながら比較的暖かな2月下旬でした。ここには伊佐地登、宮城繁、三宅恒のお三方が働いておりました。あふれるような自転車を想像しながら出かけた身には拍子抜けする程さっぱり片づいた駅前口一タリ。隅の方に、15台程の自

転車が行儀よく並んでいました。たいてい30~40台は残っているのに、数日前に市の撤去があつたばかりで特別少ない日だつた由。それにしても昨4月頃は350~400台放置されているのがあたり前だつたのだから、これが配置された。現在指導員が配置さ

れると「お役に立つ仕事が出来た」とお聞きました。「困ることは?」とお聞きしたら、夜間置き放しにして、誰かに壊されるようなことがあります。すると、お前がやつたんだろうと逆にかみつく人もいるのが心外だとのこと。ご苦労な話です。それでも「駅前がきれいで安まる早朝6時半前に置いていく人達の分なので、今のところお手上げの状態らしいです。警告札には「禁止地域、ルールを守れ」と書いてあります。赤ペンで日付も入っています。会えない人たちには札を見て反省してもらう作戦です。

所沢市では2ヶ月に3回位、放置自転車の撤去を実施しています。伊佐地さんは「生涯現役」を続けるそうです。いちばん年長の人達の分なので、今のところお手上げの状態らしいです。警告札には「禁止地域、ルールを守れ」と書いてあります。赤ペンで日付も入っています。会えない人たちには札を見て反省してもらう作戦です。

伊佐地さんは「生涯現役」を続けるそうです。いちばん年長の人達の分なので、今のところお手上げの状態らしいです。警告札には「禁止地域、ルールを守れ」と書いてあります。赤ペンで日付も入っています。会えない人たちには札を見て反省してもらう作戦です。

伊佐地さんは「生涯現役」を続けるそうです。いちばん年長の人達の分なので、今のところお手上げの状態らしいです。警告札には「禁止地域、ルールを守れ」と書いてあります。赤ペンで日付も入っています。会えない人たちには札を見て反省してもらう作戦です。

なると気も緩みがちです。事故は無理・油断・早とちりからと言われていますので、お互いに自戒が必要ですね」と挨拶。つづいて伊藤安全委員長からは、「当センターでも毎年12件前後の事故が起きています。貴い事故を除くと、少しの注意があれば防ぎえたものですが報告があり、会員数を考

えると、約百余名に一人が事故にあつているという勘定で、あらためて驚かされました。(島記)

続いて日本興亜損保代理店の見澤芳昭氏から「シルバー保険の取り扱いについて」と題して、傷害保険および賠償保険の対象になるもの、ならぬものの事例が説明され、特に自動車・原付バイクに關

連する事故は、シルバー保険の対象外であり、自動車保険で対応するので、強制・任意等、絶対に加入しておくべきですと力説。さらに「けがをした人も、させた人も回復するまでの気苦労や失われた時間、身体的苦痛等、保険では代えられないものです。万が一の対策も必要ですが、事故はゼロを目指すべきです」と締めくられました。

交通安全に関する講話は、所沢警察署の原口輝明氏から県内の死亡事故の特徴について(1)交差点事故が多い(交通事故の65%)、(2)高齢者の事故が多い(65歳以上が3分の1を占める)、(3)自転車関連事故が多い(高齢者で、特に目立つ原因是道路の斜め横断)、(4)高齢者で、特に目立つ原因是身勝手な交通ルールを自分でつくったこれらに対応する予防策を列挙・説明し、要は、「目・耳・平衡感覚や瞬発力の身体機能が衰えていくことを自覚し、安全確認が第一です」とビデオを交えての訴えでした。



最後に悪徳商法について、消費生活専門相談員の矢野豊子氏から、最近のマスコミを賑わしているジーコスモスの事件や高齢者が狙われやすい悪徳商法と、その対処方法について話され、(1)うますぎる話には、いつも落とし穴があること(2)不要なものには、はつきり断る勇気が必要なこと(3)契約はその場ではない、家族や知人に相談することなど話されていました。

閉会間際、女性のひとりが、「高齢者だから駄目じゃない、高齢者だから分別を働くかせた慎重な行動を!ですね」と咳いていた。この言葉、妙に納得の講習会でした。(粕谷記)

「(財)遠山記念館」

を訪ねて

武蔵野散歩

西武線・本川越駅前から桶川行きのバスに乗り約20分、牛ヶ谷戸で下車し標識に沿つて15分程歩くと、関東88ヶ所霊場・74番札所「圓通寺」の案内板が見えてくる。それを左へ3分程進むと記念館の門前に着いた。

門前の両側には堀があり、7月には蓮の花が咲き見学者の目を楽しませているそうだ。時代を感じさせる重厚な長屋門の脇に受付がある。入館料700円を払い中に入ると正面に萱葺き屋根の立派な玄関が見える。時代劇に出てくる武家屋敷のような静かなたたずまいに一瞬、戸惑いを覚える。

この記念館は川島町(埼玉県比企郡)出身で日興證券の創立者・遠山元一氏(明治23年)昭和47年)が幼少時に没落した生家を再興し、苦労した母親の住まいとするために建てたもの。敷地面積は約二七〇〇坪、

渡り廊下でつながる東棟、西棟から構成される伝統的な日本建築で、全国各地の銘木と選りすぐられた技術により、2年7ヶ月を費やして昭和11年に完成したとのこと。和風情豊かな庭園の一隅には裏千家・亀山宗月が設計した美しい茶室がある。また、敷地内には美術館が付設され、遠山氏が長年に亘り収集した美術品が一般公開されている。館内の中には明治43年荻原碌山制作「女」(ブロンズ)が置かれ、日本の人形や中国の陶磁器、中央アジアの染織品など見応えのある作品が多い。歴史の重みを感じさせる建物や貴重な美術品が後世に伝えられるなどを念じつつ記念館を後にした。(加藤記)



14年度事業計画策定に当たつて

事業部会長 秋山 健

陽春の候となり、会員各位におかれましても、お元気で活躍のことと存じます。本年度も事業部会におきましては、次の重点項目を、積極的に進めて参ります。

◎各職群班の一層の推進

昨年は植木班の発足があり、徐々にその成果が上がつております。他の職種にも採用設置を進めることにより、作業効率のアップ、自主性の意識改革が望まれる所であります。

◎センター運営の改善(会員就業適正委員会の設置、事務費の見直し等の検討)

国及び市からの補助金によつて、当シルバー人材センターが運営されていることは、皆様ご承知のことと存じます。しかしながら長期に亘る景気低迷、失業者の増加等により、センターの運営は非常に厳しい環境にあります。例えて申しますと、会員の毎月三十余名の入会、会員就業先の確保等は、苦慮している所であります。このような時代の中にあっても、会員の皆様の期待

に答えるべく、健全な運営を進めなければなりません。その為にも就業の適正化を検討してワークシエアリングの強化を図り、また発注者の事務費増額を考慮したいと思ひます。

◎そのほか(自主、自立の啓蒙、採算性の活用)

シルバー人材センターでは、会員旅行、作品展示会等が事務担当者により企画運営されておりますが、これらはすべ

て経費に影響して参ります。当センターも24年が経過しました。この辺で「自主・自立の原点を考える時では」と思いました。また、職種の中には、採算性の低い作業もあり、検討しなければなりません。

◎会員の皆様には、地域班の運営、配分金の支払日の変更等、会員の自主努力にご協力を頂きありがとうございます。誠に心苦しい限りであります。年会費の増額(現600円を1200円にアップ)を来たる総会に提案する予定であります。どうぞ現状を再認識して頂き、お力添えの程、お願い申し上げます。

いろいろな影響を及ぼす事も分かつてきています。(血管障害や心臓病)

前記の様な症状がありましたが、先ず、受診して頂きプラッキングを覚えて習慣にします。

毛先を歯と歯肉の境目に当て、歯ブラシを小刻みに動かし1本の歯を10回、出来れば毎食後5分~10分かけて丁寧に磨くようにしましょう。そして自分の歯で美味しく食べ、元気でいつまでも働けるよう

薄学駄話
私はこの木の名を、お歯黒の黒に由来する「もじ言葉」があつて、そこから来ていると思ひ込んでいた。しかし、全くの逆で樹皮上の黒い斑点を文字になぞらえてクロモジと言います。また、職種の中には、採算性の低い作業もあり、検討しなければなりません。

もじ言葉は、室町時代に宮中の女官、公卿たちの奥方が、食べ物や衣類の名をあからさまに口外するのを憚り、頭字に「もじ」をつける隠語的な言葉遊びから、発生し変化したと言われている。今は芝居と落語に使われるのですが、シルバー年代の私達にも分かる「もじ言葉」に: :かもじ(髪)御のじ(十分)しゃもじ(杓子)そもそもじ(おまえ)おめもじ(杓子)そもそもじ(おまえ)「ら抜き言葉」やコギヤル語、学生語等を聞くたび、「もじ言葉」に心ひかれるのは、歳のせいがんばりましょう。

言葉は、文化とともに変化する運命にあるとはいえ、現代の「ら抜き言葉」やコギヤル語、学生語等を聞くたび、「もじ言葉」に心ひかれるのは、歳のせいがんばりましょう。

最近歯周病が全身にい

就業機会創出員になつて

渡邊光信

昨年4月から就業機会創出

員の業務を担当させて頂き、早くも1年を迎えました。私の仕事は、所沢市内の民間企業から働く場所の提供をお願いし、発注者とセンター登録の会員さんとの仲介をするのが主な業務です。理事の田中文雄氏と二人で企業開拓に当たっています。

発注先企業を訪問の際、社長さんや担当者の方々から、会員さんの働きぶり、貢献についてお褒めの言葉を数多く頂いております。就業中、種々嫌なことやご苦労も多かろうかと思いますが、受注企業から感謝されますと自分の事のように嬉しく、その日は心身とも充実感一杯になります。会員さん一人ひとりへ「ありがとう」を伝えたい気持ちです。

◎情報の共有化について
就業中の会員さんから「晨麗苑で新年会」とか「忘年会に招待された」等の話を聞くと会員さんが正社員と同じように頼りにされている証であり、

嬉しいことです。

については、些細なことや言い難いこと等、何でも私どもにお教えいただければ、企業訪問時の話題として活用できますので、是非情報を寄せ願います。私どもが入手した情報もできる限りファイードバックいたします。「三方一両損」ではなく「三方一両得」に結びつけましょう。

◎発注者からの条件

受注に際し、仕事の内容、勤務時間、配分金など打ち合わせますが、最大のネックは大部分の企業が条件として「65歳以下で意欲的な人」を挙げることです。

創出員としては、先ず年齢の条件をはずして頂くため種々事例を述べ、「丈夫で元気な人」へ変える努力をしていきます。年齢制限をはずせない企業もあり、なかなかうまくいきませんが、65歳以上の未就業の会員さんは、特に、「体力維持に努め、いつまでも若さを保ちお元気で」と願わずにはいられません。一人で

も多くの就業に結びつけるよう頑張って行こうと思つていまいります。

新しい発想とたゆまぬ行動力で創出員の業務を邁進していきます。

◎今後の私の課題
まだ厳しい社会情勢ではあります。が、民間企業で永年培った経験を生かし、「自分自身が就業したいと思う仕事・条件の良い会社」を探す。特に「事務分野」の開拓に努力すること。センターの方針に沿つて、

杜満開、陽光を浴びながらのクリーン作戦を展開



(岩崎記)

投稿文

軍隊時代のよもやま話 第2話

野田 秀雄

戦後、一般兵は帰国しましたが、我ら航空技術兵は、機の整備操縦の仕方を國府軍に教えるため、抑留されました。飛行場で米軍と一緒に働いて一番困ったのは言葉です。飛行場に我らが近づくと歩哨がスイヤと二度呼び掛け、返事がないと撃たれるので、北京語を仕事の合間に覚えました。米軍は同じ事を繰り返す事をワン・パターンといい、この言葉を國府は忌み嫌います。ワントとは亀、タンは卵で頓間の事だからです。

子供が母を呼ぶママは発音が米と同じです。國府の字では口偏に馬を二つ書きママと呼びます。米軍で司令を受けたて了解した返事がテン・フオーといいますが中国には似た発音で天気が良い事をテン・フオウ(天好)と言います。ニーハオの代わりに一般的に親しい人には、朝はツォー・ハン(早飯)、夜はバンハン(晩飯)といふ、ワンラマとは食べ終わつたかとあります。

湯は開水、お茶がチャースイ、冷水がリヤンスイ、水がスイと使い分けなければなりません。

また白米はパイミイ、白菜はパイサイ、老婦人は太太、主人はジヤングイ、良家の娘はニヤンニヤン、水商売の女性をクーニヤンと呼んでいました。

市場で一斤が160匁なのに実際は140匁しかなかつたり。盗まれた物が売買されている処を銃を持つ警官が巡察している不思議な所でした。

次回は戦時中、私が整備した戦闘機「隼」「鐘馗」「飛燕」「疾風」等の馬力・性能について話をしたいと思います。

6年間お世話になりました矢島力夫事務局長は、3月31日付けで退任せられ、4月1日付で、後任に上田勝紀氏が就任されました。

なお、矢島力夫氏は、総会まで専務理事としての任務にあたります。



新事務局長 上田勝紀氏

お知らせ

あとがき

事務局職員の退職	
○大塚 晃司氏	(平成14年3月31日付)
○新井 靖弘氏	(平成14年1月31日付)
健康相談日	
5月7日(火)午後	
6月3日(月)午後	
7月1日(月)午後	

(岩崎記)

▼3月11日テレビ東京「ヒマラヤのちいさな瞳」でネパール、ブータン、インドの4人の子供が逞しく生活する様は、我々の子供時代と重なる思いで見てきた。現代でも厳しい生活中にありながら、子供の純真さと心の豊かさを感じた。今の日本の子供に心の豊かさを持てなくなつたのは、我々大人達の責任ではないだろ

うか。(粕谷記)

▼ドキドキの感激は年とともに少なくなつて来る。最近の感動は、太鼓とマンなどを使っているが、どれも機能が複雑なため必要最小限の使い方で満足している。年と共に知識欲や適応力が少しづつ衰えている自分に戸惑いを覚える。(加藤記)

「若しも世界が100人の村だったら」というメールの話をテレビで見たこと。これも日々薄らいでいくのだが。踊りによる荒馬座の公演を観たこと。

▼本号から和田保健婦さんの「健康一口メモ」が始まります。長生きしていつも体重計を気にしながら、思つては耳の痛い話が多いと覚悟していますが、素直に、前向きにお説を承りますが、ご愛読の程を。(島記)

PRのページ

シルバー人材センターとは 「自主・自立」「共働・共助」が基本

シルバー人材センターは、高齢化社会の急速な進展に積極的に対応するための施策として、従来とは異なった新たな発想理念のもとに構想されたものです。

すなわち、シルバー人材センターは地域の高年齢者が共働共助し合うことによって、高年齢者の就業を通して福祉の増進を図りながら行政機関ではなく高年齢者の自主的に運営する団体であり、地域社会に密着した臨時的かつ短期的また簡易な仕事を家庭、事業所、官公庁等から引き受け、これをシルバー人材センターに加入している会員の希望や能力に応じて提供するという仕組みです。

そして、シルバー人材センターには、センターを運営するにあたり基本となる理念があります。これは、全国のシルバー人材センターが基本理念として共有しているものです。当センターでは入会にあたり、説明会等で基本理念としてご理解頂くようお話ししています。

ここでは、あらためて基本理念の原点を文献(抜粋)にてご紹介します。

人口の高齢化が急速に進むことが予想され、高年齢者の就業問題が、公の場で真剣に討議され始めたのは、高度経済成長も終わりに近い昭和45年頃であった。

そのなかで東京は、東京都高齢者事業振興財団と、東京都高齢者事業団発足準備会を設立し、そのいずれも会長は元東大総長の(故)大河内一男氏で、後に設立された全国シルバー人材センター等連絡協議会の会長であった。

準備会は、今後の高年齢者の就業問題を総力的に討議し、昭和50年2月、モデル事業団として江戸川区高齢者事業団を設立した。

設立にあたって大河内一男会長は、基本理念として次のように述べている。
 「高齢者事業とよばれるものは、労使間の雇用関係を前提とした上での高齢者就労でなく、あくまで地域の高齢者たちが、自主的に働くとするところの互助と共助のための就労活動であり、むしろ、おおよそ60歳以上の高齢者たちが、自分の長い人生の中で身につけた経験と技能と生活の知恵ともいうべきものを、地域のために提供することに、老後の積極的生活がいを見つけ出そうとする運動なのである。」

(「高齢社会に生きる、大河内一男講演集」)

この原点に基づいて、**<自主・自立、共働・共助>**が事業理念として運営の基本となっています。

当センターの基本理念をご理解いただき、働く意欲と能力を發揮する就業機会の拡大にご協力下さい。